

行政コスト計算書(経常的な費用と収入)

29年4月1日～30年3月31日

1年間の経常的な行政活動によるコストと受益者負担である使用料・手数料などの収入を示しています。

単位:百万円

	一般会計等	全体	連結
経常費用	51,449	75,562	87,950
1.業務費用	33,074	39,351	43,292
(1) 人にかかるコスト	9,676	10,128	11,975
職員給与、退職金など			
(2) 物にかかるコスト	22,355	27,421	29,191
光熱水費、修繕料、委託料、物品購入費など			
(3) その他の業務費用	1,043	1,801	2,125
借入金の利子など			
2.移転費用	18,375	36,211	44,658
補助金、社会保障給付など			
経常収益	3,581	8,808	9,582
1.使用料・手数料	1,720	5,915	6,233
2.その他	1,861	2,893	3,349
純経常行政コスト (経常収益－経常費用)	△47,868	△66,754	△78,368
1.臨時損失	256	322	323
2.臨時利益	59	72	73
純行政コスト C	△48,064	△67,004	△78,618

純資産変動計算書(純資産の増減)

29年4月1日～30年3月31日

貸借対照表中の純資産(資産から負債を差し引いた残余)が1年間でどのように増減したかを明らかにするものです。

単位:百万円

	一般会計等	全体	連結
前年度末純資産残高	482,556	490,626	499,773
1.純行政コスト C	△48,064	△67,004	△78,618
2.調達した財源	48,382	68,148	79,635
市税、国県補助金など			
本年度差額	318	1,144	1,017
本年度純資産変動額	1,908	10,164	10,085
本年度末純資産残高 B	484,464	500,790	509,858

29年度末における純資産比率(純資産合計/資産合計)は84.3%と高水準を維持しており、健全な財政を保つとともに、市債や基金を活用することで将来世代との負担を平準化していることがわかります。今後においても、財務書類を財政運営の指針として活用することが、未来への持続可能な財政運営を目指す上で重要となります。

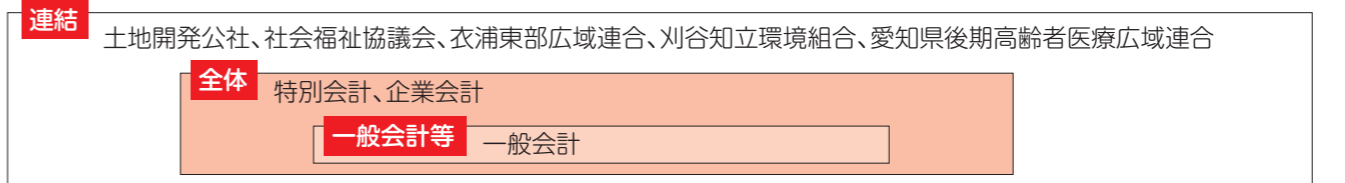
※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

統一的な基準による財務書類を公表します

問 財務課(☎62-1006)

市では、総務省より示されている統一的な基準に基づき、民間企業のように「発生主義」、「複式簿記」の考え方を取り入れた4つの財務書類を作成しています。市がこれまで築いてきた資産を含めた財政状況を報告します。

対象となる会計の範囲



貸借対照表(バランスシート) 29年度末の残高

年度末現在の資産や債務を表しています。

各表中の **A B C** はそれぞれ同数値であり、各表の相関関係を示しています。

単位:百万円

	一般会計等	全体	連結	一般会計等	全体	連結
資産の部				負債の部		
市が保有している財産です。				次世代が負担する借入金(市債)など、将来返済する必要がある債務です。		
1.固定資産	484,200	564,850	576,176	負債合計	16,180	94,777
市役所、図書館、学校、道路、橋りょう、公園、上下水道施設、特定目的基金など				純資産の部		
2.流動資産	16,444	27,321	28,460	これまでの世代がすでに負担した金額であり、将来返済する必要がないものです。		
(1) 現金預金 A	7,452	17,630	18,700	純資産合計 B	484,464	500,790
(2) 財政調整基金	8,767	8,767	8,767	負債・純資産合計	500,645	604,636
(3) その他	226	925	995			
資産合計	500,645	592,171	604,636			

市民1人あたりの資産、負債および純資産(連結ベース)
(30年3月31日現在 人口150,617人)

資産401万円
負債63万円
純資産338万円

資金収支計算書(現金の増減) 29年4月1日～30年3月31日

1年間の現金の増減と残高を示しています。また、その収支を性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分して表示することで、どのような活動に資金が必要とされているかを表します。

単位:百万円

	一般会計等	全体	連結
1.業務活動収支	7,688	10,256	10,703
行政サービスの実施にかかる資金収支			
2.投資活動収支	△10,554	△11,286	△11,663
固定資産の購入や売却にかかる資金収支			
3.財務活動収支	1,487	810	428
借入や借入金返済などにかかる資金収支			
本年度資金収支額	△1,379	△220	△531
前年度末資金残高	7,028	16,047	17,409
本年度末資金残高	5,649	15,827	16,879
本年度末歳計外現金残高	1,803	1,803	1,803
本年度末現金預金残高 A	7,452	17,630	18,700

連結ベースでは、業務活動収支の107億円と、借入金(市債)の返済・新規借入の差額4.3億円を、投資活動収支の固定資産取得などに116.6億円充てた結果、資金が5.3億円減少しました。また、本年度末現金預金残高は187億円となりました。

業務活動収支と投資活動収支の合計(プライマリーバランス)は赤字となっていますが、将来に向けて基金の積立額を増やしたことや、教育環境の整備・充実を図るための投資を行ったことが主な理由です。

美術館の催し

問 美術館(☎23-1636)

常設展第Ⅳ期 絵画を愉しむ 描かれた人びと

時 2月21日(木)～4月7日(日) 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 月曜日、3月22日(金)

場 特別展示室

内 最も身近で、美術の重要なテーマになってきた人間。自画像、愛する家族、美しいモデル、旅先や異国で出会う人、夢の中の住人など、近・現代の画家が描いた人間像にスポットをあて、その表現の多様性や魅力を当館コレクションで紹介しします。



▲鬼頭鍋三郎《舞姿》1981年

春のワークショップ

①がったいにんげん

時 3月21日(木・祝日)

10時～11時30分、13時～14時30分

内 大きな紙に順番に寝転がり、体の形をなぞったら、色や模様をつけて遊びます。どんな形になるかはお楽しみ。

対 年少～年長児 定 各24人

②カラダカラ?

時 3月28日(木) 10時～15時

内 段ボールを自分の形に切り抜き、ひもや毛糸で飾り付けます。もう一人の不思議な自分のできあがり!

対 小学生 定 15人

【共通】

場 2階研修室 講 山口百子氏(美術家) 料 100円

申 3月6日(水) (必着) までに、往復ハガキの往信用裏面にイベント名(①は時間も)、参加者氏名(フリガナ)、学年、年齢、性別、保護者氏名、住所、電話番号を、返信用表面に郵便番号・住所、氏名を記入して美術館「春のWS係」(〒448-0852 住吉町4-5)へ。

※1人または1グループ、1通のみ有効 ※申込多数の場合は抽選とし、結果は全員にハガキで連絡します。